第1学年D組 英語科学習指導案

日 時 令和5年11月4日(土) 第1限
場 所 第1学年D組教室(教室棟1階)
指導者 城所拓磨 中村幸友子

1. 主題名 SDGs café

カフェ (*Here We Go! ENGLISH COURSE1* -Daily Life Scene 3)

2. 目標

- (1) 飲食店で、注文するやり取りができる。 〔知識及び技能〕
- (2) SDGsの達成に貢献するようなカフェを考え、それを踏まえたうえで簡単な語句や文を用いてやり取りすることができる。 〔思考力、判断力、表現力等〕
- (3) SDGsの達成に貢献するようなカフェを考え、それを踏まえたうえで簡単な語句や文を用いてやり取りしようとしている。 〔学びに向かう力、人間性等〕

3. 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む力
聴くこと	〈知識〉 Can I ～？, Which ～ or ～？, How much ～？などの飲食店でのやり取りに用いられる文の構造を理解している。 〈技能〉 飲食店でのやり取りを聞き取る技能を身につけている。	SDGs達成に向けた飲食店の取組を意識し、やり取りするために、必要な情報についてその概要を聴き取っている。	SDGs達成に向けた飲食店の取組を意識し、やり取りするために、必要な情報についてその概要を聴き取るようとしている。
読むこと	〈知識〉 Can I ～？, Which ～ or ～？, How much ～？などの飲食店でのやり取りに用いられる文の構造を理解している。 〈技能〉 飲食店でのやり取りを読み取る技能を身につけている。	SDGs達成に向けた飲食店の取組を意識し、やり取りするために、必要な情報についてその概要を捉えている。	SDGs達成に向けた飲食店の取組を意識し、やり取りするために、必要な情報についてその概要を捉えようとしている。

<p>話すこと (やり取り)</p>	<p>〈知識〉 Can I ～？, Which ～ or ～？, How much ～？などの飲食店でのやり取りに用いられる文の構造を理解している。</p> <p>〈技能〉 飲食店でのやり取りを行う技能を身につけている。</p>	<p>SDGs 達成に向けた飲食店の取組を意識し、やり取りするために、必要な情報についてその概要を伝え合っている。</p>	<p>SDGs 達成に向けた飲食店の取組を意識し、やり取りするために、必要な情報についてその概要を伝え合おうとしている。</p>
<p>話すこと (発表)</p>	<p>〈知識〉 Can I ～？, Which ～ or ～？, How much ～？などの飲食店でのやり取りに用いられる文の構造を理解している。</p> <p>〈技能〉 SDGs 達成に向けた取組を説明する技能を身につけている。</p>	<p>自らが考案した SDGs 達成に向けた取組を紹介するために、必要な情報についてその概要を紹介している。</p>	<p>自らが考案した SDGs 達成に向けた取組を紹介するために、必要な情報についてその概要を紹介しようとしている。</p>
<p>書くこと</p>	<p>〈知識〉 Can I ～？, Which ～ or ～？, How much ～？などの飲食店でのやり取りに用いられる文の構造を理解している。</p> <p>〈技能〉 飲食店でのやり取りを簡単な語句や文を用いて書く技能を身につけている。</p>	<p>SDGs 達成に向けた飲食店の取組を意識し、やり取りするために、必要な情報についてその概要を簡単な語句や文を用いて書いている。</p>	<p>SDGs 達成に向けた飲食店の取組を意識し、やり取りするために、必要な情報についてその概要を簡単な語句や文を用いて書こうとしている。</p>

4. STEP との関わり

(1) 各教科としてのとらえ

第1学年の生徒は7月にSTEPの導入を受け、夏休みの個人研究として身近な諸問題に目を向け始めたところである。10月に学級横断のチーム編成を行ったものの、調べ学習を中心とした取組が続いており、多角的・多面的な見方・考え方ができていない現状がある。本単元は「カフェでのやり取り」ができることを主目標としているが、SDGsの達成に着目させることで、より多様な思考を働かせる必要がある。本単元で設定した課題が、生徒たちにとって今後のSTEPの活動をより多角的・多面的に取り組むことにつながると考えている。

また、コミュニケーションツールであるという教科の特性として、英語学習には他者の存在が必要不可欠な面がある。与えられた課題に対して、協働しながら粘り強く取り組む姿勢を大切にしたい。

(2) 育成したい資質・能力について

SDGs 達成を目指すカフェの取組を考える際、【根拠】および【じっくり・いろいろ】と考えることが重要となる。またそこには【アイデア】の資質・能力を生かすことも必要であろう。ペアワークやグループワークの際に必要な【協働】、自分の考えや気持ちを相手に伝えることで育まれる【伝達・発信】については本単元に限らず全ての単元でその育成を図る。また「カフェの取組交流会」を経て他者からのアドバイスを受けることで、自らの思考を調整する【振り返り】の資質・能力にも変容を促したい。

5. 単元について

本単元では、主な言語材料として”Can I ~?” , ”Which..., ~or...?” , ”I’d like ~.” , ”How much ~?” の表現が新出となっている。飲食店で注文をする際にこれらの表現は有用であるため、他の使用頻度の高い表現と合わせて習得をねらうことができる。

昨今 SDGs の認知度が高まっており、三重県では「三重県 SDGs 推進パートナー登録制度」への申請が令和 5 年 6 月時点で 1,000 件を越えている。少し意識を向けて街を散策するだけでも、SDGs 達成に向けた様々な取組がよく見られるようになってきている。外食産業においても「環境負荷軽減メニューの開発」や「フードロス削減」などが具体的な目標として設定されており、SDGs 達成への取組が馴染み深くなってきていることがわかる。しかしながらその一方で、「SDGs ウォッシュ」*と揶揄される事例が少なからず起こっていることも事実である。教科等横断的な観点から社会科（フェアトレード、児童労働）、国語科（エシカルに生きる、森には魔法つかいがいる）などの教科と内容面において関連を図れる単元と捉えることもできる。

カフェでのやり取りという身近な題材ではあるが、訪れるカフェによってサービスや雰囲気、商品価格は大きく異なり、また SDGs 達成に向けた具体的な取組も多様である。そのような中、生徒たちはカフェ×SDGs の発想で取組を考えることで、複雑だがより真正なやり取りを英語で行うことが可能であると考え。生徒たちの柔軟な思考力で、様々なカフェの取組が出てくると、それに伴ったやり取りを見られることに期待できる。

6. 指導について

音読による input 活動を中心に、生徒同士がコミュニケーションを多く図れるように授業設計をしている。授業冒頭で行う Small Talk では、やり取りによる output 活動を通じて、身についた表現を最大限活用する機会として大切にしている。ここでは会話の内容を伝えることに重きを置き、小さな間違いについて教師がその都度修正することに執着しない。これは「普段の会話」に近い状態で生徒同士に会話をさせることをねらうためである。生徒が言いたいことを伝えられるように、適切な中間指導を常に心がけている。

単元ゴールを「SDGs の達成に貢献するようなカフェを考え、それを踏まえたうえで簡単な語句や文を用いてやり取りすること」とした。単純なやり取りばかりでは生徒の資質・能力を引き出すことは難しいと考えたため、本単元における資質・能力の育成を図る具体的な手立てを以下に示す。

・【根拠】 および【じっくり・いろいろ】

実際の取組を知り、SDGs ウォッシュの観点からも考える。

・【アイデア】

SDGs の達成に貢献するような現実的・実現可能な取組を考える。

・【振り返り】

peer review を通して、自らが考えた取組がより良いものとなるように考える。

・【協働】

ペアで活動に取り組む。

・【伝達・発信】

自らが考えたこと取組を自分のことばで、他者が理解しやすいように伝え合う。

第1時では、Can I ~?、Which ~ or ~?、How much ~?などの飲食店でのやり取りに用いられる表現や語彙の習得を図る。教科書の定型文に捉われることなく、自然なやり取りを生徒たち自身に考えさせることで、表現の幅を広げさせたい。

第2時は実際にカフェが取り組んでいるSDGsの取り組みを知り、どのようなカフェでやり取りを行うのかを考える時間として設定している。SDGs達成に向けた具体的な取組として、フードロスに関わるアイデア、生分解性プラスチックまたは紙製のストローを活用するなどの比較的思いつきやすいアイデアが出てくることが予想される。しかし、教科等横断的な観点から社会科で既習となっているフェアトレードについても想起させたい。環境に良いとされる取り組みを行う一方で、児童労働によって生産されたコーヒー豆を扱うといった、前述したSDGsウォッシュとなっていないかにも留意させたい。生徒たちが様々な取組を調べ、創造的にカフェについて考えることができるよう指導する。

本時と第4時では、自らが考えたカフェの取組を他者と伝え合い、peer reviewの活動をもとに、取組の内容を改善する時間として設定している。互いの取組を批判的に考えることで、自分では思いつかなかった発想や観点到に気づかせることをねらう。思考の流れや他者からのアドバイスを可視化させ、生徒が振り返りをしやすいようなワークシートを用意する。

第5時では、最終時に向けて「メニュー表」を作成する時間として考えている。タブレット端末を活用するか、手描きのメニュー表を用意するかは生徒自身に決定させるが、ここでも配色や文字の大きさにUD(ユニバーサルデザイン)の発想で誰にでも見やすいものとなるよう配慮させたい。

最終時では、ワールドカフェ方式で生徒1人ひとりの会話量を確保する。自らが考えたカフェでのやり取りを意識させたい。店員の立場、客の立場の両方を経験させたい。第5時で作成したメニュー表をいかすために、1人ひとりが所有している金額に差を生じさせる。また「電子マネーしか持ち合わせがない」といった客の設定にもこだわることで、より真正なやり取りとなるよう工夫を凝らしたい。

7. 指導と評価の計画

○「評価に用いる評価」 ●「学習改善につなげる評価」

時間	□ねらい ■学習活動	評価の観点			評価方法	育成したい 資質・能力
		知	思	態		
第1時	□カフェでのやり取りに必要な英語表現を習得する。 ■教科書本文のテンプレートを活用した音読練習とパターンプラクティスに取り組む。	●		●	●行動の観察 ●振り返り	【振】 【協】
第2時	□SDGs 達成に向けたカフェの取組を考える。 ■SDGs 達成に貢献している外食産業について調べ、自分たちのカフェの取組を決定する。	●	●	○	●行動の観察 ○ワークシート	【根】 【ア】
第3時 (本時)	□カフェの取組交流会で学び合う。 ■カフェの取組交流会で、自分たちのアイデアを伝え合う。 ■カフェの取組交流会で、他者のアイデアを批評し合う。	●	●	●	●行動の観察 ●振り返り	【じ】 【振】 【協】 【伝】
第4時	□カフェの取組交流会を経て、自分たちのカフェをより良いものにする。 ■次時に向けて準備を進める。	●	●	○	●行動の観察 ○ワークシート	【振】 【協】
第5時	□メニュー表づくり ■自分たちのカフェに訪れる客のことを考えて、メニュー表を作成する。	●	●	●	●行動の観察 ●振り返り ●カフェのメニュー表	【根】 【ア】 【協】
第6時	□カフェ交流会でやり取りをする。 ■ワールドカフェ方式で自分たちのカフェに訪れた生徒とのやり取りを録画し、一番良いものをロイロノートで提出する。 ■学級内で投票を行い、best café を決定する。	○	○	○	○やり取りの動画 ○行動の観察 ○振り返り	【振】 【協】 【伝】

8. 本時の指導 (第3時/全6時)

(1) 目標

- ① SDGs の達成に貢献するような取組を聞き、助言を行ったり、相手の助言をもとに自分たちの取組を改善したりできる。 [思考力, 判断力, 表現力等]
- ② SDGs の達成に貢献するような取組を聞き、助言を行おうとしたり、相手の助言をもとに自分たちの取組を改善したりしようとしている。 [学びに向かう力, 人間性等]

(2) 指導計画 (50 分)

学習活動	○指導上の留意点 ◆評価	育成したい 資質・能力
1. Small Talk (pair work) (a) ペアで会話をする① (b) 中間指導 (c) ペアで会話をする② (d) 中間指導 (e) ペアで会話をする③ (f) 全体で共有する	○できるだけ英語で会話を続けさせる。 ○中間指導で、言いたいけれど言えなかったことを共有させる。 ○pair work の相手はその都度変えていく。 ○回数を重ねるごとに異なる負荷をかける。	【協】 【伝】
The students can tell their “actions” to their friends and get useful advice.		
2. Prepare (pair work) 自分たちのカフェの取組を確認し、英語で紹介するための準備をする。	○ペアで考えたカフェの取組を確認し、英語で説明する準備をさせる。 ○話す内容を英文で書こうとする姿が見られた場合は、key words のメモ程度に止めるよう指導する。 ○グループを組み、相手のペアに自分たちのカフェの取組を英語で説明させる。	
3. Show and Tell (group work) (a) Performance (b) Peer Review ① (c) Performance (d) Peer Review ②	○相手ペアの説明を聞いた後、良い点と改善点を口頭で伝えさせる。 ○グループのメンバーを入れ替えて、もう一度同様の流れで行う。	【じ】 【伝】
4. Reflection and Revise (pair work)	○ペアになり、良い点と改善点を整理させる。	【振】
5. Reflection (personal)	◆本時の振り返りをさせる。	

注

- 1) 「SDGs」と「whitewash (ごまかす、うわべを取り繕う)」を組み合わせた造語。SDGs への取り組みを行っているように見えて、その実態が伴っていないビジネスを揶揄する言葉。

<参考文献>

- (1) 文部科学省(2017), 『中学校学習指導要領 (平成 29 年告示) 解説 外国語編』.
- (2) 国立教育政策研究所教育課程センター(2020), 『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校 外国語』.
- (3) [三重県 | 総合計画等：三重県 SDGs 推進パートナー登録制度について \(mie.lg.jp\)](http://mie.lg.jp)